

Nihongo Network News

2003.1.17発行

No.40

TNVN東京日本語ボランティア・ネットワークは、ボランティア日本語教室活動を行っている団体のネットワーク（連絡協議会）として、情報交換や活動の活性化を図ることを目的に、1993年12月に結成されました。TNVNの会員はそれぞれの地域で日本語教室活動を通して、言葉のために日常生活に不自由を感じている外国人などを隣人として支援しています。

TNVN 東京日本語ボランティア・ネットワーク
〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1 ☎03-3235-1171
東京ボランティア・市民活動センター メールボックスNo.4

地域日本語支援コーディネータ に関する集まりに参加して

東京地域日本語支援 コーディネータ研修会に(注1)

日本語ボランティア支援団体で、中心となり活動する30余名が参加(TNVN会員14名)。以下はTNVN会員の参加者と主催者からいただいたコメントです。

●会が大きくなり民間運営の難しさを感じ、解決の糸口を探る期待で参加しました。終わって、私の期待は消化不良かなと思ったが、どの教室も悩み・問題は共通でした。

ワークショップで学習者と支援者の関係位置付けの違いが興味深かった。日本語教室の現状や法律上の外国人スタンスの情報など、噛み締めるほどに価値を感じた二日間でした。

(LTC友の会・松田 有為子)

●「こんな内容なの？」と思った人が多かったのでは。それぞれが抱えた問題の解決に、役立てたかったのでは。この講座に「温度差」があったのではないのでしょうか。はじめに問題点を書いた辺りではみなそう考えたと思います。私もその一人でした。

これをきっかけにより広いネットワ

ーク作りが出来た事も事実です。

(田無国際交流サークル・飯塚 睦)

●講習内容は、さまざまな文化の違いを受容・理解するための柔軟性・寛容性を育む工夫がなされ、エポケー（判断停止・判断留保）の作法・修得ができ、内容に感銘を受けました。

大木弁護士からのレポート、オーバーステイに対する見解を参考に、リソース型日本語教材を場面教材として使わせていただきます。

(八王子にほんごの会・斎藤 広子)

●実施理由は、都内の外国人住民の増加に伴って日本語学習支援団体が増加、中心者同士の顔の見える連携協力が重要と考えたからです。

これを契機に、TNVNおよびTAMA日本語NETの連携協力で東京地域の共通する課題解決に向けての取り組みを期待します。

(武蔵野国際交流協会・杉澤 経子)

注1 (10/18.19 主催：武蔵野市国際交流協会、東京国際交流財団で共催)
文化庁が国際日本語普及協会(AJALT)に委嘱し、「地域日本語教育活動の充実事業」を目的に「地域日本語支援コーディネータ研修会」が全国各地で開催されている。その一環として開催されました。

地域日本語支援 コーディネータ懇談会(注2) とネットワーク構築

各地域での日本語支援活動の現状、地域におけるネットワーク構築・維持・活用、コーディネータの役割、日本語ボランティアを対象とした専門的知識・能力の向上の研修等の報告・発言がされました。参加者は地域毎に異なる課題を抱え、悩みながら取り組む状況を切実に述べられました。ボランティア団体と行政との関わりもありました。ネットワークの構築はその活動目的に賛同する団体・グループにより行われるが、ネットワークをコーディネートする人材の確保と関連団体相互の協力が不可欠です。ネットワークの維持・活用は、ボランティア活動が多様性を持つ中で顔の見える集まりと共有できる情報の交換・蓄積、ウチ・ソトの垣根解消等を如何に進め、多数の外国人が社会の一員として溶け込めるようにする等、役割は大きい。

(梶村 勝利)

注2 (12/6 文化庁)

全国で開催されたコーディネータ研修事業の成果を踏まえて、今後必要とされる研修プログラム及びコーディネータや関連機関・団体との連携・協力の在り方等につき意見交換しました。

日本語を母語としない親と子どものための進路ガイダンス 2002 in MATSUDOに取り組んで

寄稿

千葉大学 教育学部教授 長澤 成次

現在、千葉県内には約2700名の外国人の子どもたちが学び、そのうち、文部科学省の統計（2001年）では874名の子どもたちに日本語指導が必要とされている。しかし、現実には、日本政府も批准している子どもの権利条約第28条において、国籍を問わず、すべての子どもの教育への権利を規定し、無償の義務的初等教育と共に、無償かつすべての子どもに利用可能な高等学校を含む中等教育の発展を政府に求めているにもかかわらず、実際には、日本語教育をはじめ就学している子どもたちが抱えている問題の大きさ、未就学の子どもたちの存在、あるいは高校への進学が困難であるというさまざまな課題が存在している。

先ごろ、文化庁が主催して開催された「地域日本語支援コーディネーター懇談会」（2002年12月6日）には、全国から日本語ボランティアネットワークの関係者が集まったが、たとえば長野県では、外国籍児童の4人に1人が未就学である実態をふまえて「外国籍児童就学支援募金」の運動がはじまり、あるいは三重県人権問題研究所では就学進学ガイドブック『学校へ行こう！』が発行されているなど、この問題に対すると取り組みが全国的にも広がりつつあることを実感できた。

さて、このような事態を改善するために、房総日本語ボランティアネットワークが、今年度の取り組みとして力を入れたのが表記の会である。高校進学に焦点をあてての、日本語を母語としない親と子どものための進路ガイダンスはおそらく県内ではじめてであった。それだけに私たち自身が大いに学ぶ必要があった。幸い事務局を担当された高校の先生や千葉県内のボランティアの皆さんが既に東京や神奈川・大阪での取り組みとつながっており、おかげで先行する進路ガイダンスから多くを学ぶことができた。私自身も東京と神奈川のガイダンスを見学し、ボランティアの皆さんや教師たちが真摯に日本語を母語としない子どもや親たちと向きあっている姿に感動し、そして多文化・多民族共生社会への諸努力を肌で感じたのを今でも思いだす。

さて、私たちの取り組みであるが、案内チラシ（日本語、中国語、韓国・朝鮮語、スペイン語、ポルトガル語、英語）を作成し、さらに学校のしくみ・千葉県

の高校入試制度や外国人が受けやすい入学試験、授業料、奨学金等が説明された冊子もチラシと同様6言語で作成した。当日は、中学生本人30名（言語別内訳：中国語14、スペイン語7、フィリピン語6、韓国語2、英語1、ポルトガル語1、不明1）、親・保護者32名（含小学生）、通訳20名、高校生4名、中高教員14名、実行委員14名、その他20名で計134名が参加した。プログラムは、高校と中学の先生による千葉県の高校進学に関する説明と既に高校に進学している外国人の高校生から経験談を語っていただき、その後、言語別に分かれて進学ガイダンスを行った。どのグループも真剣に高校の先生方の話を聞く姿が印象的であった。遠くからきた外国人の参加者の「このような会をもっと近くで実施してほしい」という声や、また「進学に関する情報を得られてよかった」などの声が聞かれた。

房総日本語ボランティアネットワークは千葉県内の日本語ボランティアをつなぐゆるやかなネットワークでありたいと考えてきた。主に定例学習会や、やや大きなイベントを時々組みながら今日まで活動してきたが、今回の取り組みを通じてさらにネットワークがひろがったことを実感している。と同時に、私たちの活動が今日の日本の社会においてどのような意義を持っているのかについては常にこだわりつづけていくことも大切なのではないかと痛感している。11月14日に公表された中央教育審議会「新しい時代にふさわしい教育基本法と教育振興基本計画の在り方について（中間報告）」では、たとえば「国際社会を生きる教養ある日本人の育成」の中に「日本人としてのアイデンティティ」という言葉がすべりこまされ、あるいは「新しい『公共』」という名のもとにボランティア活動*が位置づけられていることなどに、ある種の危惧を抱きつつあるからである。

*拙稿「中教審『青少年の奉仕活動・体験活動の推進方策等について（答申）』を批判する」（『季刊教育法』第134号、2002年9月、エイデル研究所）を参照のこと。

●長澤 成次

研究室：千葉市稲毛区弥生町1-33

TEL/FAX：043-290-2568

e-mail：nagasawa@e.chiba-u.ac.jp

ご存知ですか？

バカとチョンにつける薬

▶「バカチョン」は差別用語か

NHKのハングル講座の某講師が、あるクラブで一人のホステスから「…そんなことバカでもチョンでもわかる」といわれ、自分がバカにされたと思い込み、怒ってテーブルをひっくり返したという逸話がある。はたして「チョン」は朝鮮の人びとを軽蔑したことはなのだろうか。

困ったことに、日本語ボランティアに影響力のある人びとが、「チョン」を差別用語としてとりあげている。野中俊平氏（韓国・全南大学校講師）は「韓国人の日本偽史」のなかで全面否定し、この誤った説が韓国でひとり歩きしてしまうことのないよう警告を発している。

▶「チョン」は「衆」の意

日本語に若い衆とか烏合の衆、旦那衆に芸者衆などの用語があるように、「バカチョン」とは「馬鹿な衆」の意味であり、語源は中国語の「众 Zhong チョン」である。

人を3人組み合わせて衆の字を当て、大勢の人を意味している。そして、この「~衆」という使い方が「烏合之众 wu he zhi zhong」という中国語の四字熟語からきているのは明らかである。したがって「バカでもチョンでもわかる」は、バカでもだれでもわかる、という意味に解すべきだと私は考える。馬鹿といえばまた、中国人はすぐ「指鹿为马 zhi lu wei ma」の四字熟語を思い浮かべるのではない

だろうか。秦の丞相趙高が、二世皇帝にシカを献上してウマだといい、臣下たちも趙高を恐れて、みなウマですと口を合わせた。しかし、臣下のある者はシカだと答え、あとで趙高に殺されバカをみたという<史記・秦始皇本紀>。「馬鹿」の語源については諸説紛々であるが、この故事から出ているというのも一つの説である。もう一つの説は、サンスクリット語（梵語）の「痴」や「愚か者」の意を表す moha、または mahallaka からきたというものである。

このサンスクリット語に「慕何 mu he」とか「莫迦 mo jia」または「莫喝洛迦 mo he luo jia」の中国語を当て、それを「ボカ」と日本語読みにし、馬鹿の字を当てたとされている。

※「迦」は、サンスクリット語の ka の音を表す音訳字で、上古音は kia、現代音は jia である。

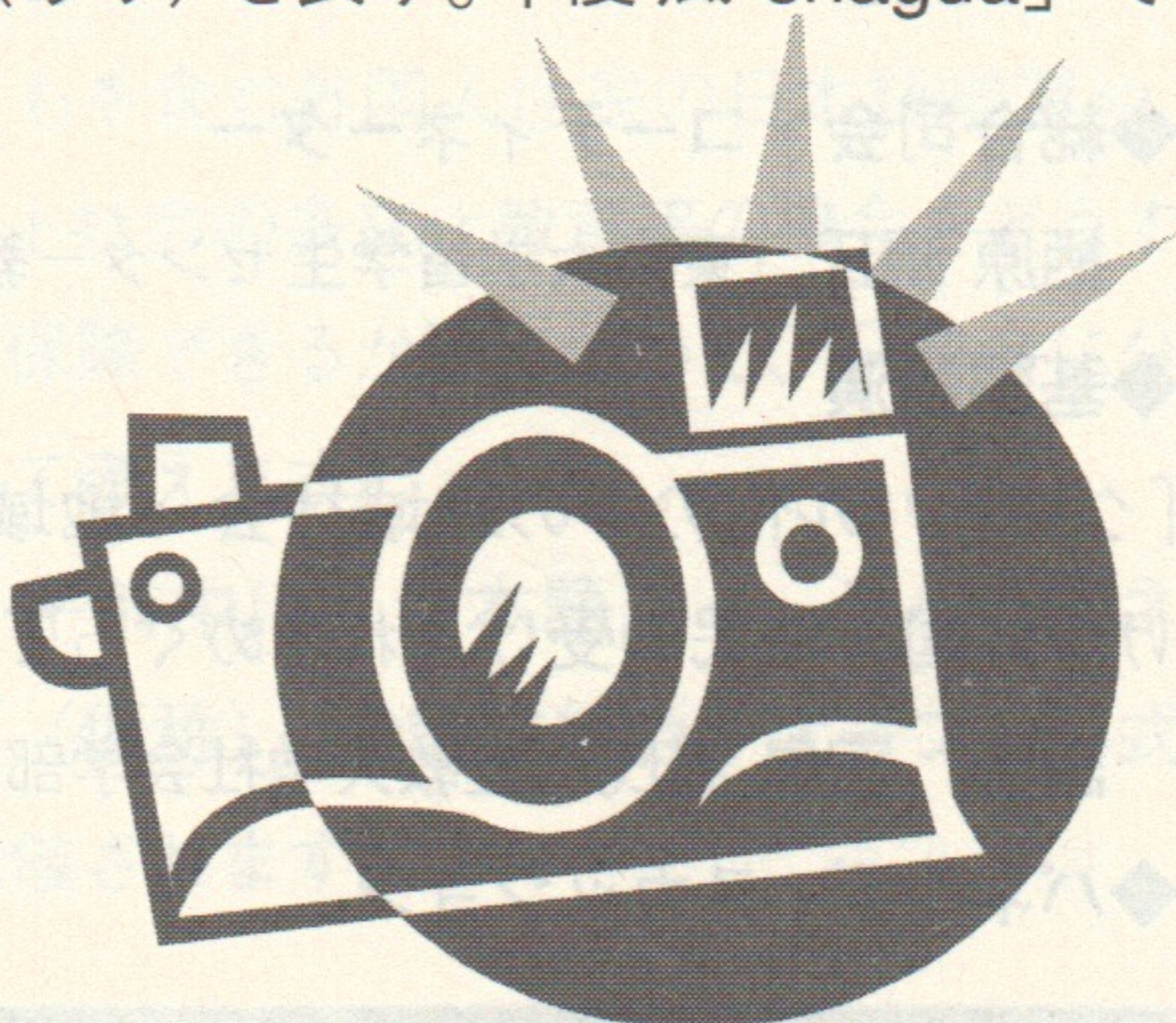
一方、この「バカチョン」ということばが中国へ輸出され、「傻瓜照相机 shagua zhaoxiangji（バカチョンカメラ）」となって、広く使われている。「傻 sha」は物が詰まって通じないという意で、「瓜 gua」は中身が詰まった（ウリ）を表す。「傻瓜 shagua」でバ

カの意味になる。「照相机 zhaoxiangji」はカメラのことである。

▶「チョン」はやはり「バカ」だった

「ウリ」にはまた、もう一つ別の「木瓜 mugua」という中国原産のバラ科の落葉低木がある。この「瓜 gua」も傻瓜の瓜と同じ意味があり、やはりバカを意味するという。道理で日本名は「ボケ」といい、ba ka から boke に転じたのではないかと類推してみたりする。さらに poka に転じて、ケアレスミステークの「ポカをやる」はどうなんだろう、とも思ったりする。そんなことをいうと「チョンボ」しちゃうかもしれない。「チョンボ」の語源は、中国語の「充和 chonghu」「許和 zhahu」であり、マージャン用語にたどりついてしまった。そして、こんなことを考えているヤツは、きっと「蠢 Chong チョン」に違いない、と気がついた。驚いたことに、中国語にも「愚か」とか「バカ」を意味する「蠢」ということばがあったのである。もう一つ、バカを意味することばに「蠢货 chun huo チュンフオ」があり、チョンと発音が似ている。蛇足ながら「チョン切る」とか「チョンにする」も中国語の「终 zhong チョン」と「穷 qiong チョン」からきており、どちらも「終わる、尽きる」の意味である。このように一口に「チョン」といってもいろいろとあり、もうこのあたりでチョンにする。

グループWA代表 木村 茂



埼玉日本語ネットワーク

〒336-0002 埼玉県さいたま市北浦和5-6-5埼玉地方庁舎3階(財)埼玉県国際交流協会内
連絡先 048-252-0360 (合地) okuchan@tcat.ne.jp (奥村)

埼玉日本語ネットワークで活動中のメンバーの方のお話をうかがうため、ネットワークの活動場所である(財)埼玉県国際交流協会を訪ねました。埼玉県国際交流協会は、京浜東北線北浦和の浦和地方庁舎にあります。「生き生きと、楽しそう！」な皆さんに、ネットワークの生い立ちや、その主な活動についてお話しいただきました。

埼玉日本語ネットワークは、1995年11月、日本語関係者のネットワークを作ろうという個人の呼びかけから始まりました。その後、県内の日本語ボランティア活動の情報交換や、日本語教室運営上の問題解決を目的とした、緩やかなネットワークが育ってきました。このネットワークの活動に参加しているのは、大部分が県内のボランティア教室のメンバーですが、日本語ネットワークには個人として参加しています。代表は適宜代わり、運営委員は月一回の定例会を中心に、全員で仕事を分担します。

埼玉日本語ネットワークでは、「埼玉の日本語教室多言語案内」「多言語による日本語教室マップ」を1997年に作成し、埼玉全域の日本語ボランティア希望者や日本語学習希望者のニーズに応じてきました。この「多言語教室案内」の特長は、一つの教室について見開き

2ページを使い、右のページには各教室についての必要最低限の情報が8ヶ国語で分かるようになっていることです。左のページの各教室紹介欄にも、手作りの良さを生かして、各グループから直接寄せられた生の声を載せています。「日本語教室マップ」は、大きな地図から、各路線の駅ごとに日本語教室を探せるようになっています。このマップは、作成後数年経ち、掲載してある日本語教室の半数が消え、さらに何倍かの数の教室ができたため2002年に改訂され、ホームページからも検索できるようになりました。現在、埼玉県内には約116の日本語教室があります。

<http://www.saitama-j.or.jp/~sia/Japanese/school-map.htm>

今回の改訂に当たり、ネットワークでは、埼玉県全域から新たに情報を集めました。これらの基になるデータは、埼玉県国際交流協会の協力を得て、アンケートの形式で各市町村の窓口を經由して集められましたが、データの集計・編集等は、全てボランティアの手によります。一番苦労した点は、データのもとになる調査票の項目の選定です。何をどう聞くべきか、何度も長時間にわたる話し合いが持たれました。活動形態・運営形

BULLETIN BOARD

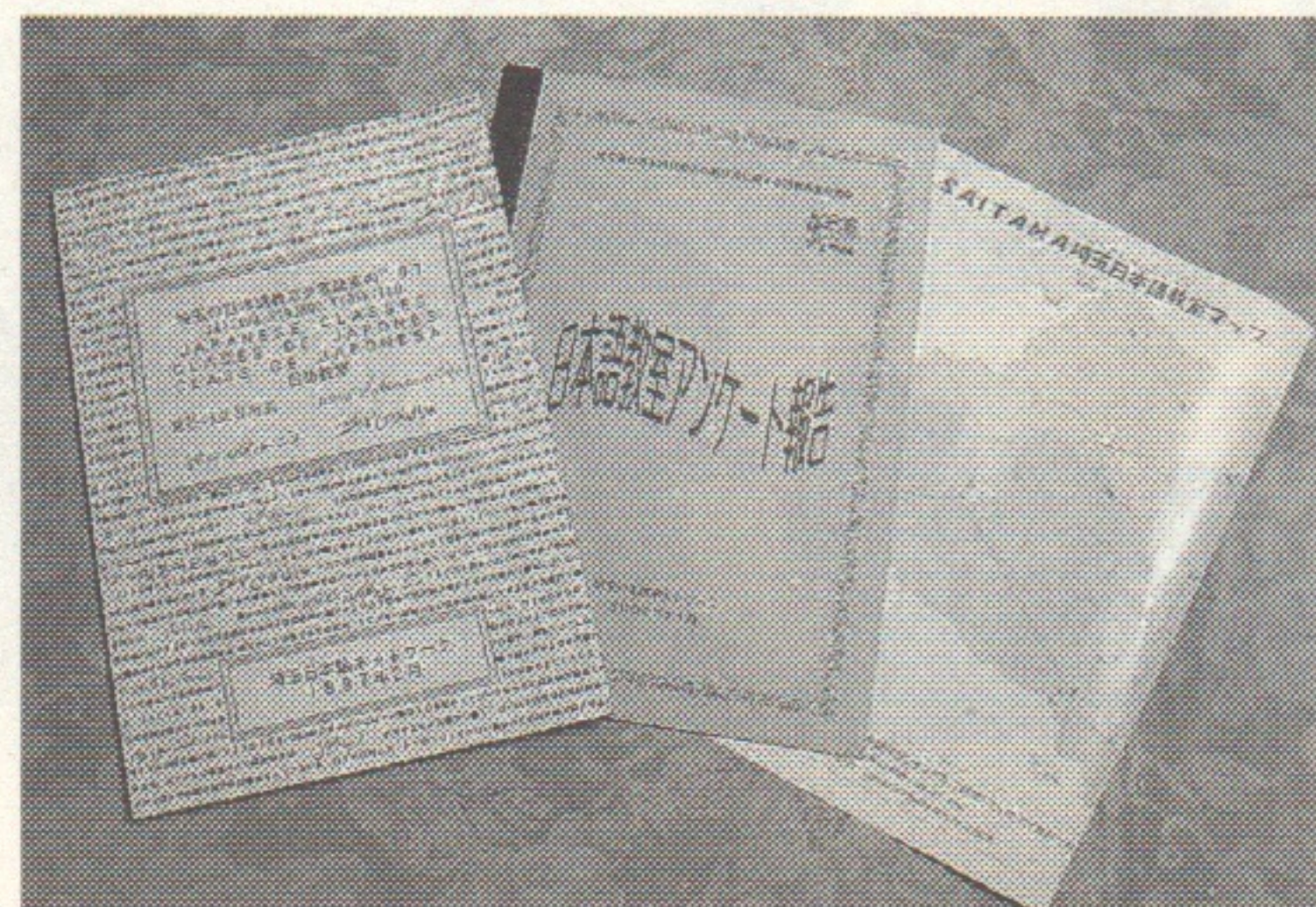
外国人住民と地域活動

～多文化社会の可能性を探る～

- ◆主催：文京区国際協会
- ◆共催：外務省・文京区
- ◆後援：東京大学留学生センター
東京日本語ボランティアネットワーク
- ◆日時：平成15年2月1日(土)
午後2時から6時
- ◆場所：文京区民センター 3A会議室
文京区本郷4-15-14
(三田線・大江戸線 春日駅0分、丸の内線・南北線 後楽園駅3分)

- ◆定員：200名
- ◆参加費：無料
- ◆申し込み
はがき、FAXか、E-mailで協会へ
- ◆総合司会・コーディネーター
栖原 暁氏(東京大学留学生センター教授)
- ◆基調講演
「グローバル化の中の地域社会～地域における外国人住民の受け入れをめぐって」
講師 宮島 喬氏(立教大学社会学部教授)
- ◆パネルディスカッション

- ◎定住外国人として地域の国際交流に望むもの・望まれるもの
松尾 カニタ氏
(FM COCOLO プログラムスタッフ)
- ◎日本語教育と日本語ボランティア
縫部 義憲氏
(広島大学教育学部日本語教育学科教授)
- ◎市民ボランティアと自治体との接点を探る
榎井 縁氏(とよなか国際交流協会事業課長)
- ◎地域における日本語ボランティア
～文京区の事例を通じて～
藤橋 帥子氏
(日本語講師・東京大学留学生センター相談室)
- ◆コメンテーター
宮島 喬氏(立教大学社会学部教授)



態・経費・保育・学習形態・教材等一般的な日本語学習支援関連項目以外の他に、外国籍児童の学習支援、総合的な学習の時間での国際理解教育授業、外国人の生活相談、海外協力支援について等、幅広い項目が入っていて、現在データの集計中です。それらのデータは埼玉日本語ネットワークの今後の活動を考えるうえでの貴重な資料になるものと思われます。

ネットワーク作成の小冊子「ともに学ぶ」～日本語ボランティアの現場から（1999年発行）では、日本語ボランティア活動に入ろうとする人へ、その基本的な考え方をわかりやすく伝えています。また、年一回、彩の国さいたま国際交流・協力ネットワーク事業への協力として日本語ボランティア・スキルアップ講座も開催し、日本語のみならずコミュニケーション能力、外国人の法律相談、医療相談について幅広い角度から研修のプログラムを組んでいます。

今回の訪問で、東京日本語ボランティアネットワークと、埼玉日本語ネットワークや、前回ご報告した房総日本語ボランティアネットワークとの連携の必要性を強く感じました。

後日談

上記の文章を書いたのは、実は夏でした。年末になって「アンケートの集計結果の発表をしますから来ませんか」とのお誘いを受け、再び北浦和へ。会場で「日本語教室アンケート報告」（2002年11月）をいただき、携わった方々の力の結集を見る思いでした。調査報告に続き、午後の懇親会にも出席させていただき、埼玉地域の事情を、肌で感じることができました。その後、運営委員の方々のお話し合いに入れていただき、ネットワークの色々な課題についても聞くことができました。「日本語ボランティア活動」について、また違う角度から考える機会をいただき、とても感謝しています。ありがとうございました。 S.F

彩の国さいたま国際交流・協力ネットワークとは

NGO（138団体）、90市町村、埼玉県、（財）埼玉県国際交流協会（事務局）の4者のネットワーク

（団体数は平成14年10月末現在）

玉生 謙一氏
（外務省文化交流部人物交流課課長補佐）

◆問い合わせ

文京区国際協会
TEL：03-5802-8422
FAX：03-5802-8400
e-mail: bia@an.email.ne.jp

日本語フォーラム 2003 in 兵庫 開催

◆主催

日本語フォーラム関西地区準備会
同全国ネット（仮称）準備会

◆内容

子どもを含む外国人住民の日本語学習や、ホスト社会の多文化教育等の機会をどうすれば保障できるか等について、分科会に分かれて考えます。
尚、午前中に「日本語フォーラム全国ネット（仮称）」の設立総会がオープン形式で開催されます。

◆分科会

1. 多文化・多言語社会の創造
 2. 日本語学習機会の公的保障
 3. 外国人等子どもの教育保障
 4. 法制度化の具体的視点
- （注）プログラムが変更される場合もありますので予めご了承下さい。

◆日時：3月2日（日）11:00～16:30

◆場所：コミスタ神戸

◆参加費：500円

（ただし、解説書は実費500円）

◆定員：100名

◆申込先：Fax 078-431-0372

E-mail fujikawa@pp.ij4u.or.jp

Nice to Meet You

日本の社会にとけ込むため
皆一生懸命努力しています

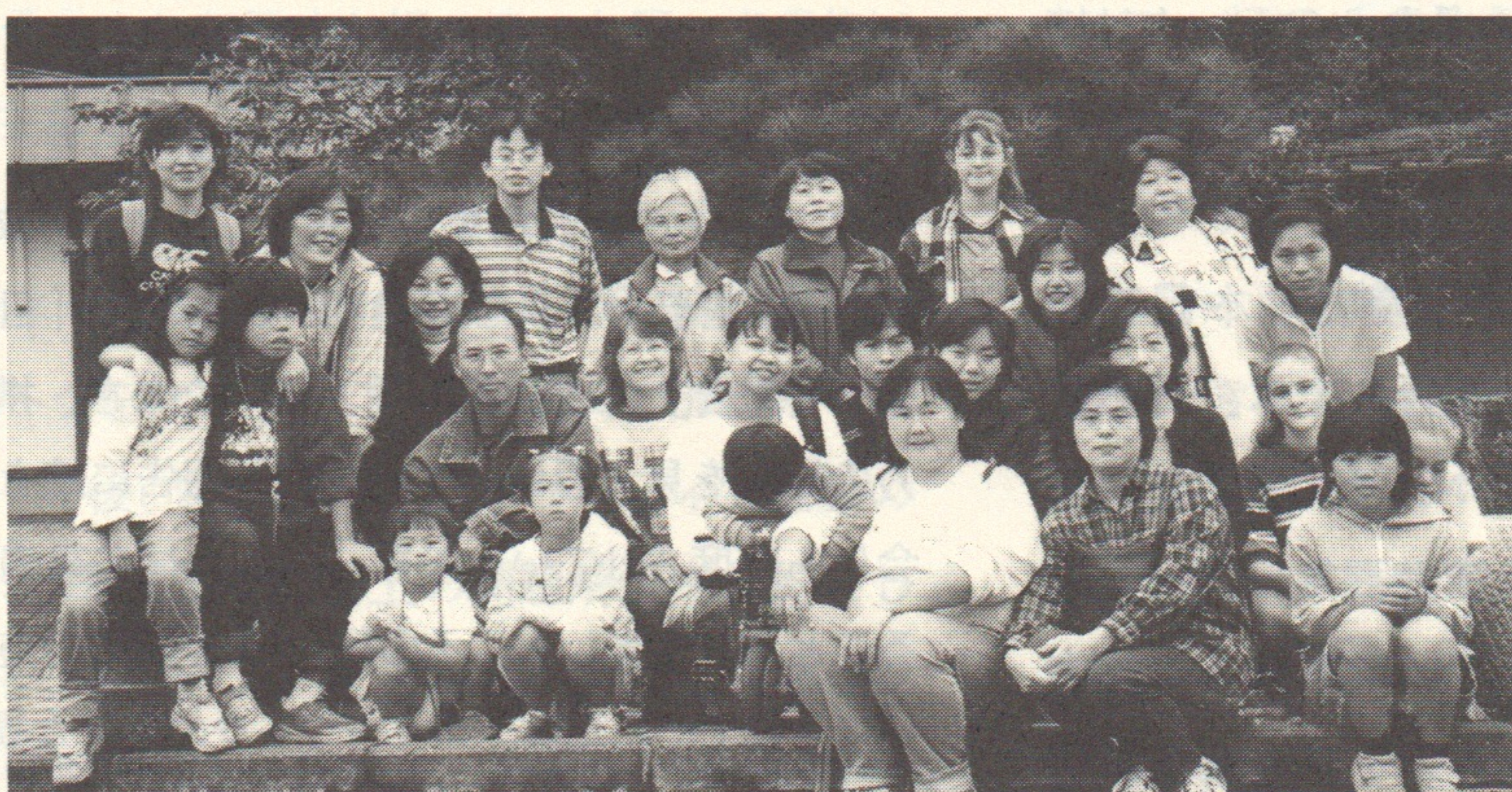
あきる野市日本語サークル

あきる野市日本語サークルは、あきる野市に在住し言葉の上で支障を来し困っている在日外国人に日本語を教えるボランティア活動として平成7年に発足しました。

平成12年度よりあきる野市社会福祉協議会のボランティア活動の1サー

クルとして活動しています。現在会員は約15名おり東京日本語ボランティアネットワークに加入しております。当サークルの活動は日本語学習とイベント、国際交流が主なものです。学習は毎週金曜日の午後7時半より9時半まであきる野市のふれあいセンターで行っております。今まで当サークルに在籍した外国人はアメリカ、ブラジル、トンガ、モロッコ、ニュージーランド、マレーシア、中国、台湾、韓国、香港、シンガポール、タイ、ラオス、ルーマニア、フィリピン、アフガニスタン、タジキスタン等多岐に及んでいます。そして日本に永住する人と、技能取得等のため短期間滞在する人に分かれ、その中には日本語能力試験を受け資格を得て帰国したいと希望し当サークルで学習している人達もおります。

当初ひとりの講師が学習者全体を相手に講義を行う講義方式でありました



が、学習者の各々が国も違い日本語の理解度も違うので全体として見た時に教習効果が悪いため、現在では各学習者のレベルに合ったテキストを選び、学習者一人に我々ボランティアが一人ついて日本語を教えるマンツーマン方式を採用しています。

日本に永住し日々の暮らしを送る中で会話と漢字の読み書きの出来ることが必要となりますが中国、韓国系の人をのぞいて横に文字を書く習慣のある国々の人達にとっては漢字の読み書きは難解で根気のいる学習です。しかし新聞や各種書類が読め理解できなければ日本の社会にとけ込めないと考えて皆一生懸命努力をしています。

イベントは年6回行う新年会、花見の会、各国の料理の会、バーベキュー、秋のハイキング（見学会）忘年会などです。新年会では書き初め、カルタ取り、各国の料理の会ではボランティア

が味噌汁や煮物の作り方を教え、学習者より中国料理やタイのエスニック料理などが披露されました。花や紅葉を鑑賞するハイキングをかねて和紙の作り方、酒や醤油の製法や日本の鯉等を見学したり、箏曲、茶道など日本文化を体験出来るように配慮しています。最近では両

国の江戸東京博物館を見学し、とても好評でした。

日本の美の心、風俗、習慣などイベントを通じて理解され、相互の信頼と交流が生まれて来ます。当サークルの会員も各々仕事を持ち忙しい中を繰り合わせて時間を作り在日外国人をサポートするために頑張っております。

会員の夢はこのボランティア活動を通じて世界中に日本語を理解し日本を深く知った人々がおり、何処の国の人達とも交流の出来る平和な世界であって欲しいとサークル全員が願っております。

あきる野市日本語サークル
代表 川上 舜一
連絡先
あきる野市雨間1937-77
電話042-558-8100

私とテレビ

申春花 / 韓国

江戸川区・江戸川日本語交流会

てから、国の学校の教育を通じてうけた日本の印象が変わってきた。

先進国日本の日本人から国の田舎で見かけられる人情味を見たし、まるで欧米人のような考え方を持っていても自分の仕事に対しては完全に日本人特有の根性を発揮してやってる事も、テレビを通じて分かった。

変わらなくてちょっとつまらない日常生活で好きな番組の時間になったら思わず笑ったり、泣いたり、ある瞬間、胸がいっぱいになったり幸せになる。

いまだに知らなかった新しい知識がふえるようになったし、まだだけど私

の日本語の実力が伸びてだんだん日本の生活が楽になると共に日本に住むことがいつの間にかすきになった。

日本に来てから1年8か月すぎて今このくらいの文章がかけるのもテレビのおかげだと思う。「ありがとうテレビ」



学習者の声

私にとってテレビは生活の活力源だし、日本語の先生だし、私の好奇心を満たしてくれる情報源だ。国に住んでいた時はテレビをめったに見なかったが、初めて見た日本のテレビはやかましい騒音機械で頭痛の原因だった。

新聞が読めなかった私がテレビさえ見られない。5年を暗い世の中で過ごすしかないと思ったら急に胸が重く感じられ始めた。

その時から日本語を勉強したのだ。日本語の勉強に授業料の要らないテレビを活用しようと思って主婦にもっと関心があり、複雑な言葉も必要ない料理とか旅行に関する番組から見た。テレビでいつか覚えた単語が出るととっても嬉しかった。世界旅行体験記とか、ドキュメンタリードラマとか、夜の9時以降のドラマは何でも見た。普通の人間の物語を通じて日本人の事が少しでも分かるようになったし、日本の伝統、習慣、文化などが少しずつ分かるようになった。

ボランティアの声

平塚裕
杉並区・LTC友の会

最近私は学習者に育てられていると実感

日本語ボランティアを始めてこの2月で9年目に入る。最初の頃は日本語を教えることに無我夢中だった。学習者の質問に答えられず頭の中が真っ白になってしまったことも度々あった。質問に答えられない時、「来週までに調べてきます」と直ぐ言えるようになるのにはずいぶん時間がかかった。日本語能力試験を受験する人を初めて担当した時は、今考えるとまるで自分自身が受験するような気分になってしまい、肝心の学習者の姿がほとんど見えていなかったように思う。

2年を過ぎて肩の力が少し抜けてきた頃、初めてやってきたKさんにいきなり「平塚さんはなぜ日本語を教えるのですか」と質問され、一瞬答に窮してしまっていたが、どうにか「二十一世紀に生きる人達のお手伝いを少しでもできればいいと思ったので・・・」と答えた。あれから現在まで、様々な国の学習者のためにささやかなお手

伝いを続けているが、最近では私自身が学習者に育てられていると実感することの方がはるかに多い。

昼は日本語学校に通い、毎日深夜までアルバイトをしながら毎週必ず長い文章や詩を書いてきたHさん。自分の国の歴史を毎回のように話してくれたMさん、私も息子が高校で使った日本史の教科書を読んだ。97年に帰国してから毎年必ず年賀状を送ってくるPさん。大学の卒業論文に宮澤賢治を選んだLさん、彼女のおかげで私はこの歳になってもう一度宮澤賢治を読むことが出来た。最近、一年くらい前に帰国したAさんから母親になった写真が届いた。孫がまた一人増えたような気分で嬉しかった。

今年はどんな出会いが待っているのだろうか。どんな挑戦ができるのだろうか。想像するとうきうきしてくる。

NETWORK INFORMATION

**東京日本語ボランティア・
ネットワーク事務局**

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1
東京ボランティア・市民活動センター

●日本語ボランティア入門講習会

日本語ボランティアを始めたい方のために役立つ基礎知識の講座です。活動のオ
リエンテーションとしてぜひ受講して

●日本語ボランティア相談窓口

事務局では日本語ボランティアに関する
ご相談・ご質問にベテランスタッフがおこ
たえします。電話またはE-mailでご確認
の上、お気軽におこしてください。

東京日本語ボランティア・ネットワーク事務局

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1
東京ボランティア・市民活動センター
メールボックスNo.4

TEL : 03-3235-1171

(呼び出し:金曜日午後のみ)

FAX : 03-3235-0050

URL : <http://www.t3.rim.or.jp/~tnvn/>

MAIL ID : tnvn@t3.rim.or.jp

●事務局は金曜日に活動しています。

◆日時：毎週金曜日

第1,第3,第5金曜日 午後2時～4時

第2,第4金曜日 午後2時～7時

◆場所

東京ボランティア・市民活動センター

●会員のメーリングリストを作りました

「活動する一人一人のためのネットワーク」を目指す改革の一段として、メーリングリストを作り、会員相互の情報交換の場 (tnvn-all@freeml.com) を設けました。メーリングリストに入って情報を共有したいと思われる会員 (会員団体のメンバー) および協力会員のご参加をお待ちしています。e-member として登録させていただきます。

◆申し込み・質問は

ML ID : tnvn@t3.rim.or.jp まで

●日本語ボランティア入門講習会

日本語ボランティアを始めたい方のために役立つ基礎知識の講座です。活動のオリエンテーションとしてぜひ受講してください。全4回 (4ヶ月)

◆テーマ

(1月) 学習者はどんな人たちか?

(2月) 日本語学習をどのように支援しているか?

(3月) 日本語ボランティアとは?

(4月) 日本語再発見

◆日時

1月10日 (金) 午後2:00～4:00

1月24日 (金) 午後6:00～8:00

2月14日 (金) 午後2:00～4:00

2月28日 (金) 午後6:00～8:00

3月14日 (金) 午後2:00～4:00

3月28日 (金) 午後6:00～8:00

4月11日 (金) 午後2:00～4:00

4月25日 (金) 午後6:00～8:00

◆会場

東京ボランティア・市民活動センター
飯田橋セントラルプラザ10階会議室
(JR・地下鉄飯田橋駅下車徒歩1分)

◆参加費

1回600円 (TNVN会員は300円)

◆参加申込み

直接、会場へおこしてください。

●日本語ボランティア相談窓口

事務局では日本語ボランティアに関するご相談・ご質問にベテランスタッフがおこたえします。電話またはE-mailでご確認の上、お気軽におこしてください。

●TNVNへの入会を希望する方は

TNVN事務局まで「活動・入会案内」を郵便でご請求下さい。(送料90円 切手同封)
<入会手続>申込用紙に必要事項を記入し、TNVN事務局に郵送またはFAXでお送り下さい。E-mailでも申し込めます。あわせて会費をお振り込みください。会員の方には毎回ニュースレター等を郵送するほか、TNVN主催の講習会等へ参加できます。

◆会費/正会員：年会費3,000円

協力会員：年会費2,000円

賛助会員：年会費1口1万円

◆会費払込み先

郵便振替口座番号00100-1-719259

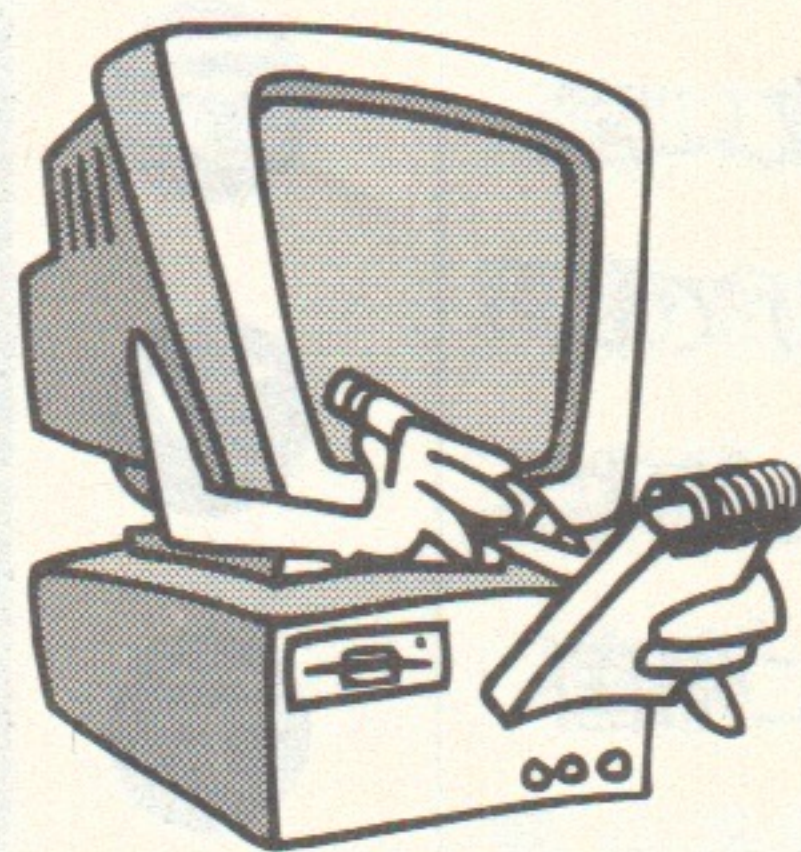
口座名

東京日本語ボランティア・ネットワーク
(通信欄に「年会費」と記入)

●連絡先の変更等は郵便かFAXで

団体の代表・連絡先 (TNVNからの郵便物の宛先)・住所などの変更および退会は、事務局まで郵便やFAXまたはE-mailでお知らせ下さい。

IT革命とやら



事務局当番の日は、まず郵便物とFAXに目を通します。郵便物は他団体からの広報誌や催し物の案内が主です。TNVNの資料請求者には活動紹介パンフやニュースレターの最新号を入会のお誘いとともにお送りします。最近事務局に対して、来訪者、電話、郵便物がめっきり減ってきたように思います。メールでの情報のやり取りが増えているからでしょうか。

今はEメールと携帯メールもなんとかでき

ますが、IT革命とやらにはついていけそうもありません。友人とも「今は時代の尻尾に何とかぶら下がっているけど、振り落とされるのは目に見えているから、そうなったら年寄りには年寄り同士仲良くしようね。」と話合っています。パソコンの中の情報は、何か薄っぺらく頼りない気がするのは年のせいでしょうか。ニュースレターの紙の質感と手触りが無くなるのでしょうか。

人間関係が希薄になって来た昨今、顔と顔をつき合わせてする日本語教室活動は得がたい時間です。

(M.O.)

SPECIAL THANKS

★長澤 成次様 (千葉大教授)

快く執筆いただきました。

新入会員のご紹介

★正会員：ミンガラ日本語教室

*2002年12月15日現在の会員数

◎正会員 63団体 ◎協力会員 94名

◎賛助会員 4団体

●編集/上野悦子、大久保澄子
岡田美奈子、梶村勝利、木村茂
床呂英一、林川玲子、山本敬子

●レイアウト/鶴田環恵